

IV 妊娠中の異常

1. 妊娠前半期の主な異常

1) 重症妊娠悪阻（つわりが悪化した状態）

症状が重い場合は点滴や入院治療が必要なとき
があります。

気分転換をし、食べられるものを摂るようにしましょう。

2) 流産

妊娠 22 週未満の分娩を流産といいます。無症状のうちに超音波検査で見つかる場合がありますが、出血や下腹痛などの症状が現れる場合もあります。



食べ物が喉を通らず吐いてばかりいるとき
出血や下腹痛があるときは
定期健診を待たずに病院に電話しましょう！

【発熱、出血、お腹の張りや痛みなどの受診方法】

受診前に必ず病院へ電話をおかけ下さい。

電話では名前と診察券番号と**妊娠週数**を必ずお伝え下さい。

診療時間内と診療時間外での対応場所が変わる為、電話口で受診方法をお伝えします。

診療時間内（平日 8：30～17：00）の場合は産婦人科外来で対応いたします。

診療時間外（休日・夜間）では、救急外来で対応いたします。

※妊娠 37 週以降は、2 階病棟での対応となります

分娩時の連絡方法をご参照ください。

2. 妊娠後半期の主な異常

1) 早産（妊娠 22 週以降から 37 週未満の分娩をいいます。）

下腹部の張り（子宮の収縮）、下腹部痛、腰痛、性器出血などの症状があります。

腹部緊満が持続しないようお腹の張りを感じたら
すぐ身体を横にして休みましょう。
横になって休んでも腹部緊満が頻回にあり、治まらないときは
病院に電話しましょう

2) 妊娠高血圧症候群 (従来 of 妊娠中毒症)

高血圧が主な症状で、他に蛋白尿、むくみなどの随伴症状があります。
体重が一週間で 500g 以上増えないようにしましょう。
最高血圧が 140mmHg、最低血圧が 90mmHg 以上になったら要注意です。

適度な運動と体重管理をし、太りすぎに注意して、
塩分の少ない食事を摂るよう心がけましょう。



3) 妊娠貧血

妊娠すると循環血液量が増えるため、血液中の鉄分が不足しやすくなります。
貧血の程度によっては薬や注射などの治療が必要な場合があります。

バランスのよい食事を心がけて鉄分と良質のたんぱく質、ビタミン、
葉酸などを多く摂るようにしましょう。

4) 妊娠肥満

① 非妊時の肥満の判定

肥満の判定にはいろいろな方法がありますが、その一つとして
BMI が用いられています。

$$\text{BMI} = \text{体重(kg)} \div \text{身長(m)} \div \text{身長(m)}$$

あなたの BMI

$$\text{BMI} (\quad) = (\quad \text{kg}) \div (\quad \text{m}) \div (\quad \text{m})$$

* 肥満の判定基準 (日本肥満学会、1999)

B M I	判 定
1 8 . 5 未満	低体重
1 8 . 5 ~ 2 4 . 9	普通体重
2 5 . 0 ~ 2 9 . 9	肥満 (I 度)
3 0 . 0 ~ 3 4 . 9	肥満 (II 度)
3 5 . 0 ~ 3 9 . 9	肥満 (III 度)
4 0 . 0 以上	肥満 (IV 度)



* 妊娠期間を通しての推奨体重増加量

体格区分	推奨体重増加量
低体重（やせ）:BMI 18.5未満	12～15 kg
ふ つ う : BMI 18.5～25.0未満	10～13 kg
肥 満 : BMI 25.0～30未満	7～10 Kg
肥 満 :BMI 30以上	個別対応

普通の体格なら妊娠10ヶ月で10～13kgの体重増加が目標です。それ以上太りすぎるといろいろな弊害が出てきます。もともと肥満の方は体重増加を5kg以下にするなど増えすぎないように、もっとコントロールする必要があります。

* 肥満が母児に与える影響

- ・ 身体に回る血液量が増えて、心臓に負担がかかるため動悸や息切れがする
- ・ 血圧が高くなり、妊娠高血圧症候群を起こしやすくなる
- ・ 下半身に皮下脂肪がつき、産道が狭くなる
お産が長引く原因となり、異常分娩を起こしやすい
狭い産道を通して産まれてくるため、赤ちゃんにストレスがかかりやすい
- ・ 腰痛の増加をまねく



肥満は異常の入り口です。

適度な運動をし、カロリーをとり過ぎず、バランスのよい食事に心がけて、体重が増えすぎないようにしましょう。

5) 前置胎盤

胎盤が子宮口の一部または全部を塞いでいる状態で、痛みを伴わない性器出血が主な症状です。出血は少量の場合と多量の場合があります。胎盤が子宮口を塞いでいる場合は帝王切開となります。

定期健診で前置胎盤と言われている方は極少量の出血でもすぐ病院に連絡しましょう。



6) 前期破水

陣痛が始まる前に卵膜が破れて羊水が外陰部から流れて出てくることをいいます。出てくる羊水量はほんの少しのことも多量のこともあります。

* 破水かも?と思ったら湯船に浸かる入浴は避け、清潔なパットやタオルを当ててすぐ病院に電話してください。破水が確定したら感染予防のために陣痛がなくても入院していただくことになります。

妊娠 36 週以前の性器出血（37 週過ぎで少量の場合はおしるしと考える）、
下腹部痛や頻回の腹部緊満、破水感などがあつたら、
すぐ病院に電話しましょう。



3. 妊娠中の不快症状

手のむくみ
胸焼け
腰痛
痔
静脈瘤
こむらがえり



頭痛、めまい
動悸、不安
皮膚の荒れ
頻尿、便秘
おりものの変化
足のむくみ

など

* これらの症状は個人差があり、感じない場合もあるし、強く感じる場合もあります。おかしいな?と思ったら医師や助産師、看護師にご相談ください。



病院の連絡方法 TEL:0569—82—0395(代)

平日 8:30~17 時は産婦人科外来へ

36 週未満の方は夜間・休日は救急外来で対応させていただきます